

平成30年度行政評価シート【個表】

平成 30 年 7 月 5 日

評価対象事業		評価者	こども相談課長 平井 あかね		
こども-19	実施事業	子育て支援事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課	こども相談課
	まち・ひと・しごと		<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課	こども支援課
総合計画上の位置付け	分野	子育て	施策の方針	すべての子育て家庭への支援	

1 事業の目的

対象	子育て家庭等
意図	子育てに関する多様なサービスや情報を提供し、子育てニーズに対応するため。
効果	子育て中の市民が子育てを楽しみながらできる環境整備を行う。

2 平成29年度に実施した事業の概要

<p>・ファミリーサポートセンター若しくは子育て支援事業者の育児支援又は家事支援を利用した人のうち、在宅で子育てをしている家庭などに、利用料の一部を助成した。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------

3 事業費等基礎データ

データ区分	28年度決算		29年度決算		データ区分	30年度当初予算		備考
	人口等の	人口	176,869人	176,466人		人口	176,308人	
	世帯数	80,928世帯	81,150世帯	世帯数	81,763世帯			
	事業の対象者数			事業の対象者数				
運営資源状況	決算値(千円)	2,405	2,133	当初予算(千円)	2,820			
	国県支出金			国県支出金				
	地方債			地方債				
	その他			その他				
	一般財源	2,405	2,133	一般財源	2,820			
	人員配置数	0.5	0.2	人員配置数	0.3			
事業経費運営	人件費(千円)	3,958	1,556	人件費(千円)	2,397			
	総事業費(千円)	6,363	3,689	総事業費(千円)	5,217			
	市民1人当りの経費(円)	36	21	市民1人当りの経費(円)	30			
	対象者1人当りの経費(円)			対象者1人当りの経費(円)				

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効率性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	2. 統合に向けた検討は可能
妥当性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	3. 変わらずにある
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい	3. 廃止・休止による影響は大きくある
	今後も市が実施すべき事業か	5. 豊かな市民生活に寄与することから、今後も市が実施する必要がある
有効性	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	4. 事業の方向性や手法も適切であり、大きく貢献している
公平性	受益者負担は公正・公平か	○-1. 負担導入済 ○-2. 適正な受益者負担を導入している
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	○-1. 協働実施済 ○-2. 既に市民等と協働して適切に事業を実施している
		協働実施済の場合のパートナー NPO法人

事業内容の方向性	<input type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す ⇒	見直しの種類	<input type="checkbox"/> 拡大	見直しの内容	
	<input checked="" type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする		<input type="checkbox"/> 縮小		
	<input type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する		<input type="checkbox"/> その他		
	<input type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する ⇒				事業へ統合

予算規模の方向性	<input type="checkbox"/> A: 予算規模を拡大する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由	本制度利用者は毎年増えていたが、平成29年度は横ばいとなった。在宅子育て家庭の推移を見ていくため、現状維持とする。
	<input checked="" type="checkbox"/> B: 予算規模は現状維持とする		
	<input type="checkbox"/> C: 予算規模を縮小する		

総評(評価に対する考え方、根拠等)	引き続き事業を実施し、在宅子育て家庭の支援を行っていく。
-------------------	------------------------------

平成29年度事業実施にあたっての課題 (前年度未解決の事項を含む)	申請に必要な書類手続きが複雑でわかりにくいいため、簡素化し、誰でもわかりやすいものにする必要がある。	
課題解決のために行った平成29年度の取組	申請書様式の変更を行い、記入しやすくした。	<input checked="" type="checkbox"/> 解決 <input type="checkbox"/> 一部解決 <input type="checkbox"/> 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	申請書に添付される書類に不備が多く、事務処理に時間を要している。報告書等の記載の仕方に関して周知が必要である。	

◎ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	ファミリーサポートセンター利用助成事業実施状況								
団体名	鎌倉市	平塚市	藤沢市	茅ヶ崎市	小田原市	逗子市	秦野市	厚木市	大和市
他市実績	○	×	×	×	×	○	○	×	×

比較事項	同上								
団体名	伊勢原市	海老名市	座間市	南足柄市	綾瀬市	三浦市	葉山町	寒川町	大磯町
他市実績	×	×	○	×	×	×	○	○	×

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	県内4市2町で実施しているが、それぞれ独自の制度であり、比較対象にはならないが、在宅で子育てを行っている家庭への支援のため、今後も事業を継続する必要がある。
----------------------	--------------------------------------------------------------------------------

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	利用料助成件数	単位	件	指標の傾向	⇒	備考		
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	
助成件数の把握により家庭負担軽減の状況を把握するため。	目標値	350	350	400	400	400	400	
	実績値	366	416	426	390			
	達成率	104.6%	118.9%	106.5%	97.5%			

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	助成件数の推移により、在宅で子育てをしている家庭の数、状況等が把握できる。
-----------------------	---------------------------------------